

ニュースリリース2026-PD-032
2026年7月29日**中期経営戦略「Vision2030」を策定**

アイベックスエアラインズ株式会社（以下「IBEX」）／本社：東京都江東区、代表取締役社長：前澤豊）は、このたび、2026年度から2029年度を対象とする中期経営戦略「Vision2030」を策定しました。

国内線マーケットは、需要構造の変化や世界的な物価高・円安によるコスト上昇、将来的な人口減少など、不可逆的な構造変化に直面し、大きな転換期を迎えています。

IBEXは、安全運航を揺るぎない基盤とし、地方航空インフラの維持・発展を担うという社会的使命を将来にわたり果たしていくため、フリート刷新を起点とした事業構造改革に着手します。

オペレーション力を競争力の源泉とする新たなリージョナルエアラインモデルへの構築を通じて、持続的な成長を可能とする事業基盤の確立を目指します。

記**1. 中期経営戦略の基本方針****オペレーション力を競争力の源泉とする新たなリージョナルエアラインモデルへの転換**

環境変化へ柔軟かつ持続的に対応できる事業基盤を構築し、地方航空インフラの維持・発展を担うリージョナルエアラインを目指します。

2. 重点戦略**(1) フリート刷新**

2029年からCRJ700の退役を開始するとともに、エンブラエルE190-E2による新たなオペレーション体制へ移行します。

100席クラスの機材を活用することで、需給適合領域を拡大するとともに、生産性と競争力の向上を図ります。

(2) 事業構造改革

フリート刷新を起点に、生産体制・販売体制を一体的に見直し、新たな事業運営モデルへ転換します。

オペレーションを競争力の源泉と位置付け、オペレーティングキャリアとしての機能強化に経営資源を集中します。

(3) BtoB事業の進化

ブランドの枠を超えて運航を担うオペレーティングキャリアとして、運航業務の管理の受委託や将来的なウェットリース事業など、オペレーションを中核とするBtoB事業へ進化・拡大します。

これにより、オペレーションそのものを強みとした新たな収益基盤を構築します。

3. ANAとの包括的業務提携

本中期経営戦略で掲げるオペレーティングキャリアへの転換に向けた具体的な取り組みとして、本日、ANA便の受委託事業に関する包括的業務提携について別途公表しました。

本提携に基づき、2029年度からANAとの共通事業機を活用した100席クラスのオペレーション体制へ移行するとともに、運航業務の管理の受委託を開始します。

これにより、両社の経営資源を有効活用しながら、路線維持と運航効率の向上を両立し、今後の国内線マーケットに適応した持続可能なリージョナルエアラインモデルの構築を目指します。

4. 将来像(Vision2030)

2030年代に向けて、100席クラスの運航領域における存在感を高め、オペレーションを競争力の源泉とするリージョナルエアラインモデルを確立します。

安全運航を揺るぎない基盤とし、その上に選ばれる運航品質を追求することで、高いオペレーション力を競争優位性へと高めます。

BtoB事業を軸とした成長基盤を構築し、日本の地方航空ネットワークの維持・発展を担うリージョナルエアラインを目指します。

※ ANAとの包括的業務提携に基づく事業計画につきましては、関係当局への申請および認可を前提としております。

以上